
特定非営利活動法人ソンリッサ
代表理事 萩原 涼平



NPO法人ソンリッサの紹介

ビジョン・ミッション

ひとりで抱えずに、**優しいつながりが、溢れる社会**をつくる
高齢者や若者と**ともに多世代が参加する地域社会**を共創する

組織体制

地域福祉に貢献したいという想いを持つ

- 「まごマネージャー」：20名
- ボランティア：約30名

が在籍





5000名以上の高齢者と2000名以上の若者が参加しました。

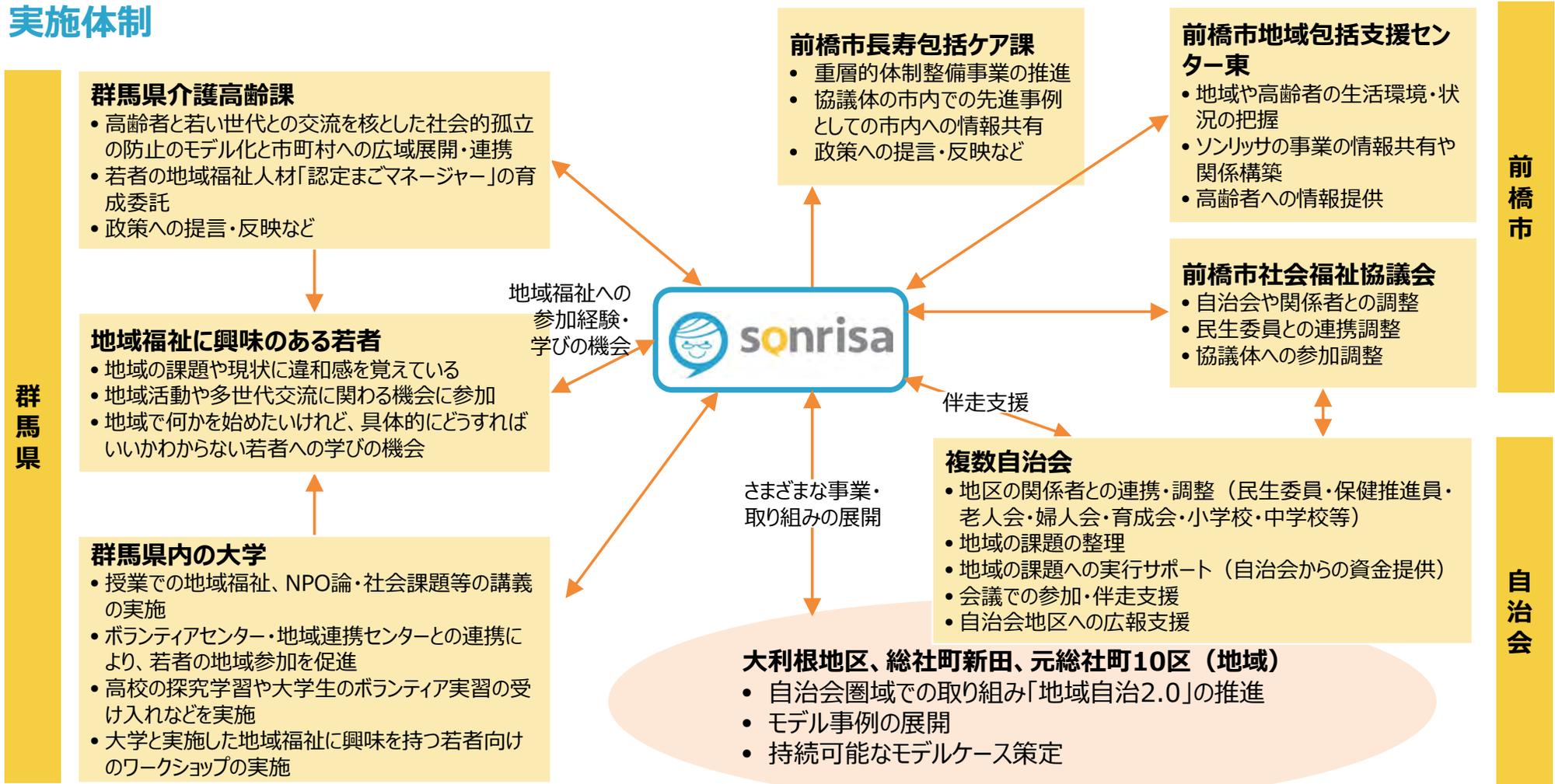


群馬の若者と高齢者の交流を通じた、笑顔を広げる地域事業を展開



地域と若者の共創による持続可能な地域自治支援事業

実施体制



まごマネージャーが生まれた背景

地域福祉に貢献したい若者の状況

- 地域の課題や現状に違和感を覚えている
- 地域活動や多世代交流に関わりたい
- 地域で何かを始めたいけれど、具体的にどうすればいいかわからない

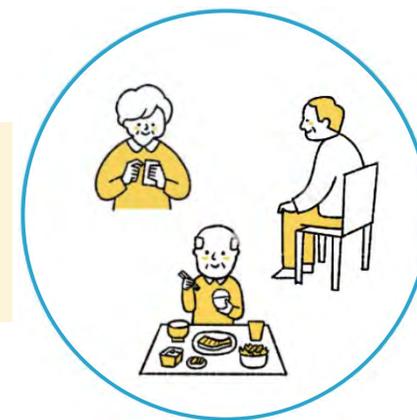
モチベーションもポテンシャルもあるけれど
地域福祉との接点を持っていない



社会とのつながりのない高齢者の状況

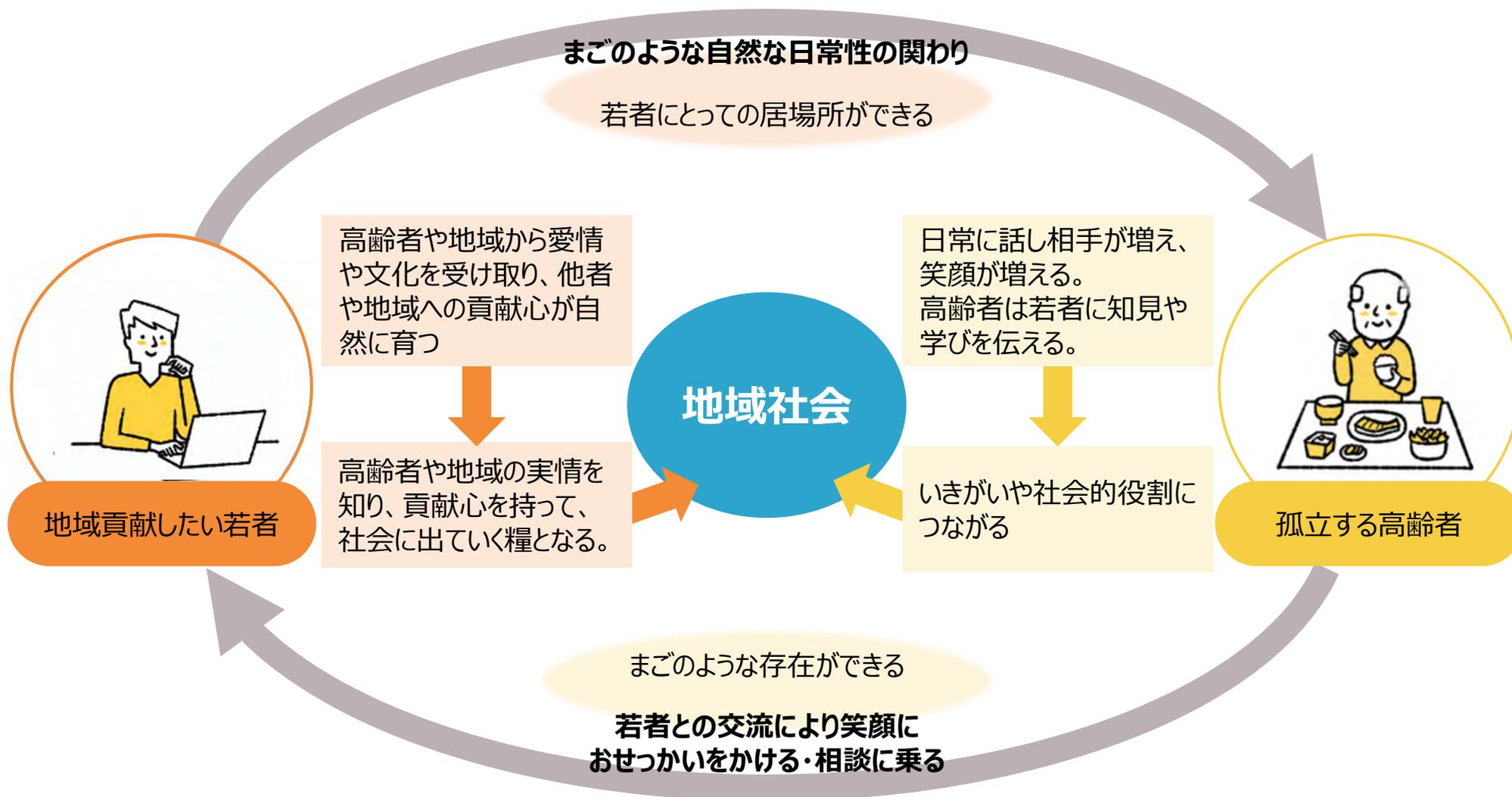
- 話し相手がない
- いきがいがない
- 人に頼れず一人で抱える
- 誰にも気にかけてもらえない
- 日常的な他者との関わりがない

他者や地域からの興味関心の目が
向かず孤立する

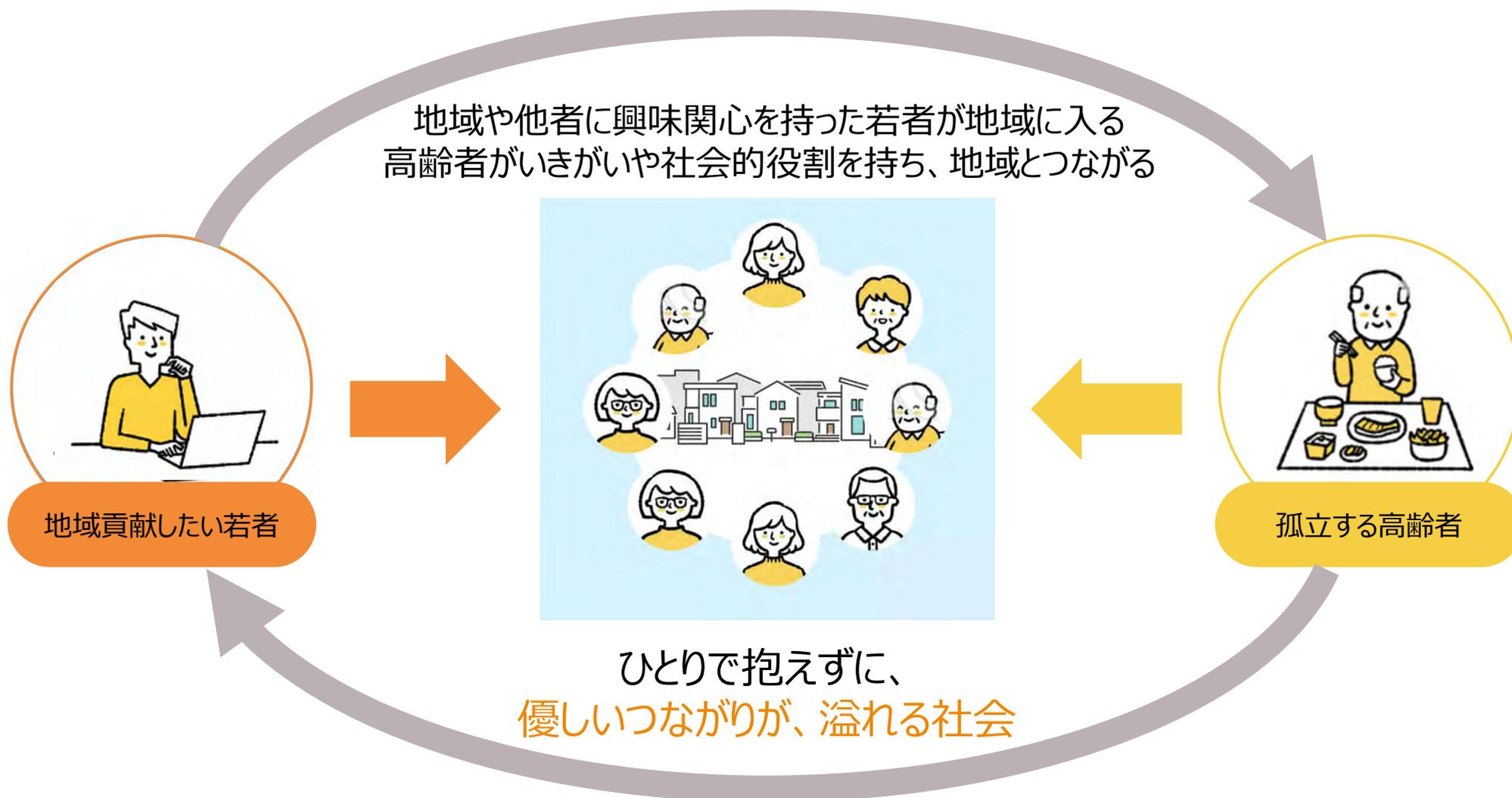


まごマネージャーの育成によって
分断されている二者をつなぐ

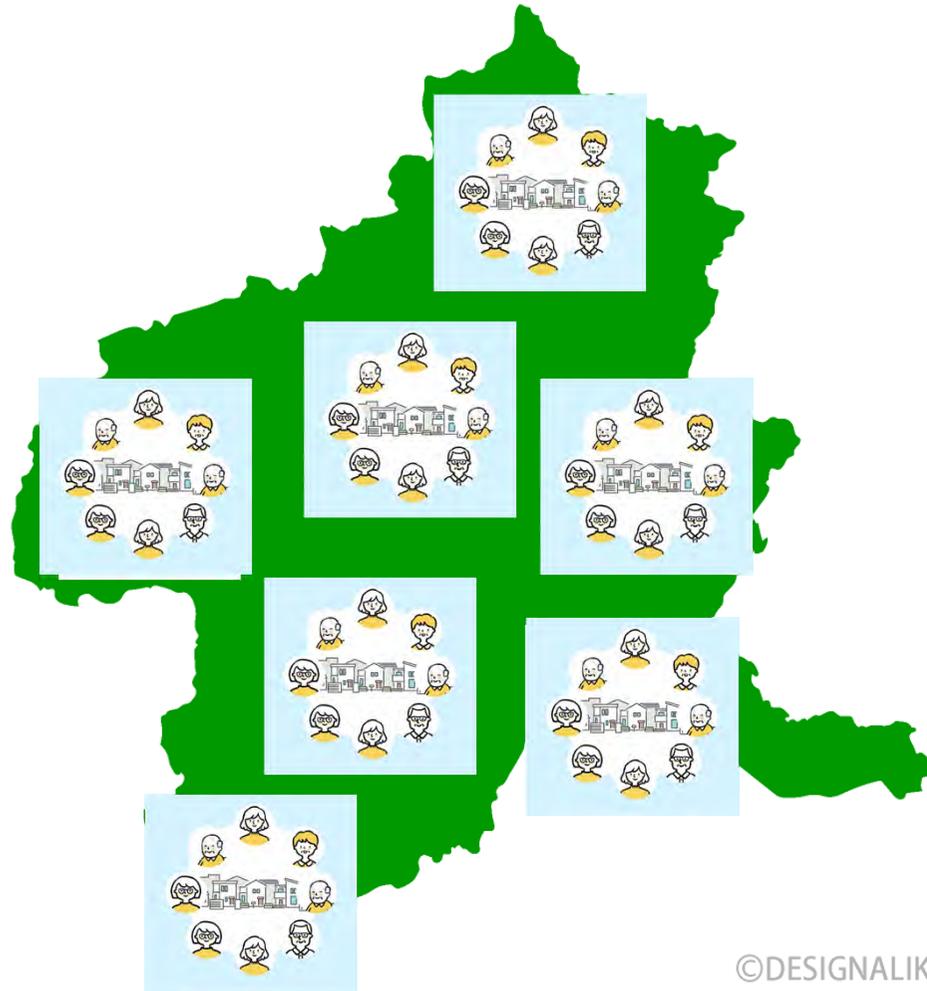
なぜ、地域の中でまごマネージャーが求められるのか



まごマネージャーにより目指す地域社会の変化



まごマネージャーにより目指す地域社会の変化



©DESIGNALIKIE



ソンリッサ事業概要

認定まごマネージャー育成プログラム

目的

- 現状は地域福祉に貢献したい若者が多くいる一方で、その多くが具体的なアクションに結びついていない。そのような若者が、研修を通してやりたいことを明確にし、地域福祉に参加する後押しをする
- 群馬県内でソリッサが提供している高齢者向けサービスをリードできる若手人材を育成する

事業概要・特徴

- 高齢者に「まご」のような距離感で関わり、高齢者一人ひとりのニーズに即した形で地域資源をマネジメントするという「マネージャー」の役割を果たす
- 育成においては、約9ヶ月にわたる座学・実務体験・活動計画へのフィードバックなども含む実践的な研修を実施
- まごマネージャーはソリッサの他事業に関与し地域福祉へ貢献

実績

- 群馬県委託事業としてプログラム実施
2023年度：受講者数7名 2024年度：受講生12名
- 自治会との協働イベント、高齢者と若者の分通所、ドリップコーヒー講座、コレクティブハウスPJなど多くの取り組みが多数生まれる。



自治会の再編を目指したモデル事業の構築

目的

- 自治会は地域福祉の要となる組織だが、近年前橋市内の自治会は機能維持・継続が困難となっている。この課題解消のために、自治会の見直し・再編を行う
- 大利根で自治会再編のモデルケースを策定し他地域にも展開することにより、地域を超えて、同様の課題を抱える他地域の課題解決にも貢献する

事業概要・特徴

- ソンリッサはNPOとして自治会に対して伴走型支援を実施
 - アドバイザー＋実行サポート（若者の担い手）として協働
 - 会議への参加、協働内容決定をソンリッサ事務局が対応
 - 地域の高齢者の孤立・孤独の解決・繋がりづくりに必要な事業の実施
- 調査研究や実績を白書としてまとめ展開予定
- 前橋市や群馬県における、地域福祉に関する政策提言

実績

- 自治会からの業務委託でまごマネ御用聞き訪問サービスを開始し、困りごとがあっても頼めない高齢者のサポート・つながり作りの実施
- ホームページ・広報協力・スマホ教室→ITを導入した住民サポート・自治会運営



高齢者見守り・コーディネートサービス“Tayory”、御用聞き

目的

自宅に引きこもりがちになり他者からの興味関心の目がなくなることで、高齢者にとっては社会との接点の減少や意欲低下につながりやすい。これらの悪循環を断ち切り、高齢者の孤立を解消するために高齢者一人ひとりに寄り添った支援を提供する

事業概要・特徴

- 一人ひとりに寄り添った訪問型見守りサービス
- 若いスタッフとのコミュニケーションを通して日々の生きがいや地域での役割、居場所づくりにつなげる
- 今後は御用聞きサービス拡充によりさらに個人ごとにカスタマイズされた支援の提供もめざす

実績

- 2021年以降累計400回以上の訪問実績
- 利用者の声から、発話量の増加、社会との接点数の増加、意欲の向上が確認されている

Tayoryのサービス内容

①定期的に訪問



個々人の想いや背景を汲み取る

②興味関心チェック

関心項目	関心度	関心内容	関心度
認知症関連		読書	
自分史作り		俳句	
家族史作り		書道・習字	
本作り		絵を描く・絵手紙	
旅行・温泉		パソコン・ワープロ	
体操・運動		写真	
掃除・整理整頓		映画・観劇・演奏会	
料理を作る		お茶・お花	
買い物		歌を歌う・カラオケ	
家や庭の手入れ・世話		音楽を聴く・楽器演奏	
洗濯・洗濯物たため		将棋・囲碁・ゲーム	
孫の世話		ゴルフ・グランドゴルフ	
動物の世話		水泳・テニス	
友人とおしゃべり		ダンス・踊り	
家族・親戚とのつながり		野球・相撲観戦	
趣味を通しての交流		ギャンブル	
居場所に行く		観劇	
ボランティア		射撃	
地域活動		福祉学	
町内会・老人クラブ		散歩	

意欲・行動の増加

③生きがいと社会の接点



役割・居場所につなげる

生きがいや想いを叶えるため、既存の公的制度では出来ないサポートを通して孤立・孤独を解消



アルバムの整理



自分史作成サポート



スマホサポート

地域健康サロン

目的

高齢者の趣味嗜好に応じた「生きがいや社会参加に繋がるサロンの選択肢」を増やすことで、高齢者の社会的孤立の予防/改善をめざす。また、コンテンツ決定にも関わってもらうことにより生きがいや活躍機会を醸成する。

事業概要・特徴

- 前橋市内にて、自治体や自治会、企業や社会福祉協議会などと連携しての協働サロンも多数開催
参加者数：1回あたり5～30名程度、年間1000名程度参加
- 助成金、補助金、企業協賛を活用することで参加費を低く抑えて実施（1回あたり200円）
- 具体的なコンテンツ例（お茶のみをしながら）
 - スマホ基礎講座（LINEの使い方）
 - 猫背改善！姿勢を良くするトレーニング
 - ドリップコーヒーの淹れ方講座

実績

- 年間100回以上実施し、年間1000名以上が参加
- 参加している高齢者と共に多種多様なコミュニティを新たに創出



大利根居場所・相談支援事業

目的

高齢者が気軽に訪れて困りごとを相談できる場が少なく、支援機関アクセスのハードルが高いことを課題と捉え、地域の中に立ち寄りやすい「居場所」を作ることによって高齢者に必要な支援が届きやすい環境をめざす

事業概要・特徴

- 高齢化率の高い前橋の地域最大規模の大利根団地の当法人拠点にて毎週水曜日の午前中に実施
参加者数：1回あたり3～8名程度、年間400名程度参加
- 各回に茶話会を実施し、参加者同時の自然な会話やつながりが生まれやすい雰囲気を作っている
- 具体的な講座内容の開催例
 - ドリップコーヒーの淹れ方講座
 - タイダイ染め体験講座
 - 人生100年これからゲームを体験しよう
 - スマホ相談カフェ

実績

- 年間50回以上実施し、のべ350名程度が参加
- 孤立状態の独居高齢者が定期的に参加し、自らの役割を持てる状態に



地域実践プログラムのご紹介

既存の自治会の限界・問題

地域の高齢者に働きかけるためには自治会単位での取り組みが有効だが、現状では自治会の機能維持・継続が困難。今でも深刻だが、今後より深刻さが増していく。

問題意識・自治会の機能不全に伴う様々な問題

- 自治会構成員の高齢化
- 高齢者の孤立・孤独、独居高齢者へのサポート不足
- 孤立している方は自分が孤立状態だと認識していない
- 民生委員の担い手不足、負担増
- 婦人会や老人会なども解散していくため、情報共有ができなくなる。
- 地域住民に声かけをする機能の低下
- 孤立死の発生増加
- 認知症に伴う課題の増加
- 高齢者虐待や消費者被害の増加



自治会の新しいあり方の検討が必要

地域実践プログラムの特徴

地域で新しい取り組みを目指す自治会と協力し、自分の想いや問題意識を言語化しながら、高齢者の笑顔のための新しい企画立案に <まごのような温かさを持って> チャレンジするプログラムです。

課題

地域のつながりの
希薄化・高齢化・孤独

実践

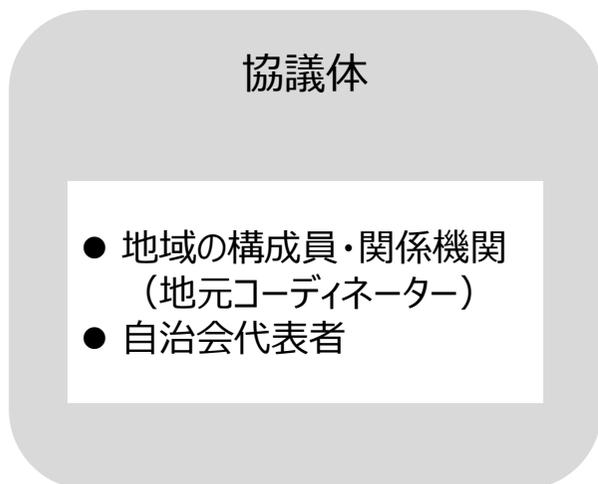
地域の担い手の減少により、課題へ手を付けづらい…
そこに今回の地域実践プログラムの若者が関わる！

目指すゴール

地域や自治会にとって、良い変化を生む推進力となる！！

地域実践プログラムを通して、目指したいイメージ

現在



目指す姿



将来的に実現できること

- 地域住民が自分の地域を自治していく意識を育てることができる、持続可能な地域自治
- 多世代で多様なバックグラウンドを持った構成員が運営に関わり、持続可能な形で自治会を支える多様な事業や取り組みが誰かに依存することなく、無理ない仕組みによって持続的に運営されている状態



構成員が多様になることで、組み合わせた見守りが可能になる

- 1) ゆるやかな見守り
- 2) 構成員の活動、自主事業
- 3) 訪問・生活支援
- 4) ICTのセンサーなどの利用

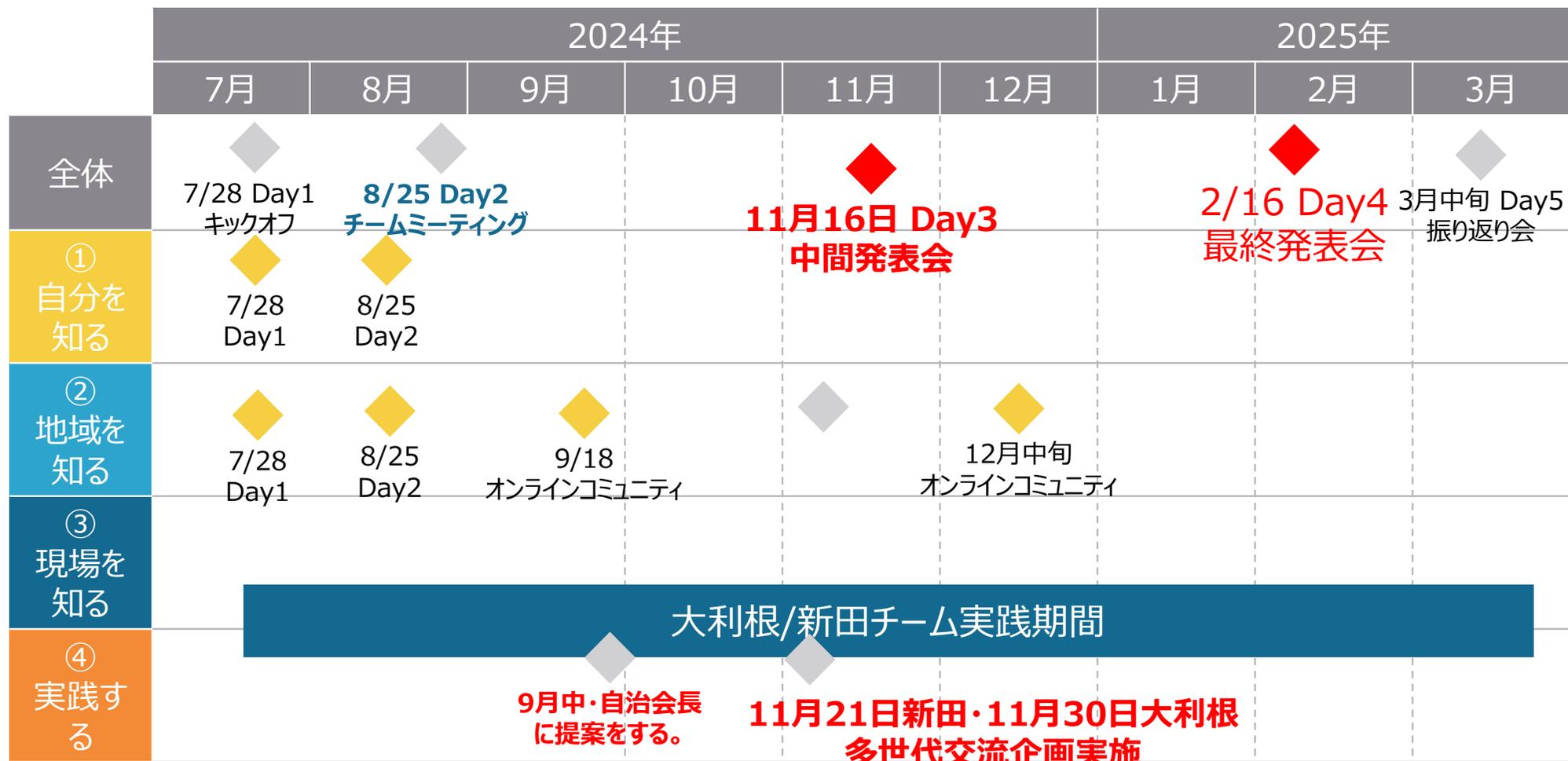
研修を受ける上で大切にポイント

**自分が理想とするありたい姿、つくりだしたい社会や
地域福祉の取り組みの解像度を上げる**



**自分のやりたいことの延長線上と
地域福祉・地域づくりをつなげる**

9ヶ月間の研修プログラム全体スケジュール



地域実践プログラムの育成方針

まごマネージャーの育成ステップ

自分の想いや課題・違和感を共有し、
社会に対してどのような価値を提供していく
かを言語化する

①
自分を知る

地域課題や制度、地域を取り巻く関係者
との対話を通して、地域への理解を深める

②
地域を知る

④
実践する

自分の想いをぶらさずに仲間と共に
計画を立て、実践をする

③
現場を知る

地域の現場で高齢者との関わりを通して、
高齢者の気持ちや背景を汲み取る

研修内容紹介 ① 自分を知る



ねらい

地域活動を実践するために、自分についての理解を通して、自分の想いややりたいことを明確化する

実施内容

- 自分の棚卸しワーク
- 講話と対話（ソニリッサメンバー、メンバー同士での対話）
- 振り返り



研修内容紹介 ②地域を知る

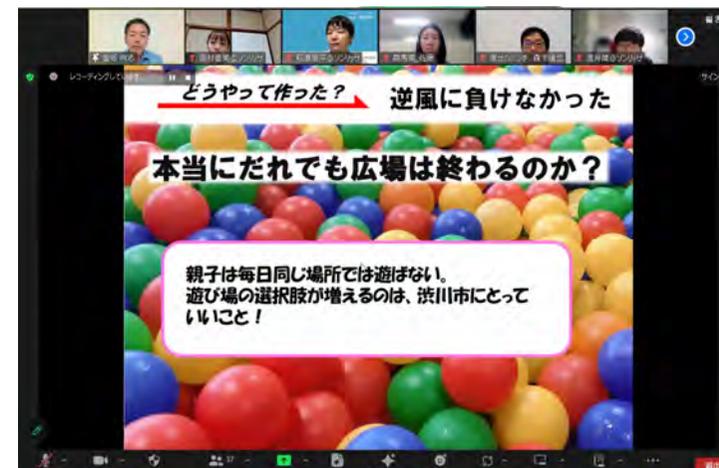


ねらい

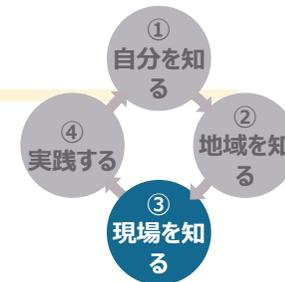
地域課題や制度、地域を取り巻く関係者との対話を通して、地域への理解を深める

実施内容

- 地域の関係者（自治会長、生活支援コーディネーター、社協職員、地域包括支援センター職員、ケアマネ、カフェ運営者など）から話を伺う
- ソンリッサのボランティアの社会人から話を伺う



研修内容紹介 ③現場を知る



ねらい

地域の現場で高齢者との関わりを通して、高齢者の気持ちや背景を汲み取る

実施内容

- ソンリッサの実際の活動（サロン、居場所など）や地域活動（地域の夏祭り、地域の会議など）に参加



研修内容紹介 ④実践する

ねらい

自分の想いをぶらさずに仲間と共に計画を立て、実践をする

実施内容

- 大利根地域で、アートプロジェクト（仮称）の企画・実施
- 新田地域で、まご喫茶（仮称）の企画・実施
- 上記の質を高めるために、以下を実施。
 - 事業計画立案のミニレクチャー（予定）
 - グループ会議
 - ピアフィードバック
 - 中間発表会、最終発表会



研修内容紹介 中間報告会



研修内容紹介 最終報告会



ソリッサの今後

より、孤立・孤独に興味関心を持って向き合い、笑顔につなげる問いかけを大切にする存在へ。



③ 高齢者を対象としたサービスの展開

- 高齢者御用聞き：高齢者の見守り／孤立防止
- 地域健康サロン運営：高齢者の活躍機会、生きがい創出
- 大利根居場所・相談支援事業：居場所づくり・地域とのつながり醸成

② 自治会の再編を目指したモデル事業の構築

孤立・孤独にアプローチする際に自治会の規模に関して、協議体の枠組みもつかいつつ関係機関と協働で地域にNPOとして参画、高齢者の孤立支援・自治会再編に関わる

① 地域の担い手となる人材の育成

- 若者のまごマネ研修
- 若者の地域活動の現場へのコーディネート
- 地域福祉の若者コミュニティ運営



優しいつながりがあふれる社会へ

ソリッサの事業概要

高齢者に優しい持続可能な地域運営の実現を目指し、3つの柱で事業を展開しています

①地域の担い手となるまごマネージャー人材の育成

持続可能な地域課題解決のための基盤作りとして、若い人材の巻き込みが重要な鍵。

ソリッサが**地域と若者を結ぶハブ**となり、長期的に貢献できる人材の育成および育成した人材の地域課題への参加を促進。

- **認定まごマネージャー育成プログラム** : 早期から地域社会とのつながりを持つことによって若者の地域福祉への関心を育てるとともに地域福祉へ貢献する機会創出

②自治会の再編を目指したモデル事業の構築

孤立・孤独にアプローチする際に自治会の規模に関して、協議体の枠組みも使いつつ関係機関と協働で地域にNPOとして参画、高齢者の孤立支援・自治会再編に関わる

③高齢者を対象としたサービスの展開

地域の高齢者に対して、孤立防止や地域とのつながりを醸成するためのサービスを多面的に展開。

- **高齢者見守り・コーディネートサービス“Tayory”、御用聞き** : 高齢者の見守り／孤立防止
- **地域健康サロン運営** : 高齢者の活躍機会、意欲刺激、生きがい創出
- **大利根居場所・相談支援事業** : 居場所づくり・地域とのつながり醸成

認定まごマネージャーとは何か

高齢者に「まご」のような距離感で関わり、ご本人のニーズに則した形で地域資源を適切にマネジメントするという「マネージャー」の役割を果たせるようにと命名しました。

具体的には、以下のマインドやスキルがある人材です。

価値観の異なる多様な世代の地域の人と関わることの楽しさを相手にも伝えられる。

ステークホルダーと連携し、相手を社会資源とつなげられるコーディネートを行えるスキルを持っている。



地域貢献したい若者

自分の想いややりたいことが地域活動にどのように繋がっているのかを言語化して、わかりやすく人に伝えることができる。

信頼関係構築のために相談する、頼るといった自己開示が自然にできる。

地域実践プログラムの事例を紹介します。

自分を変えて、地域を変える。
あなたの挑戦が地域の高齢者の笑顔につながる

「地域福祉って面白い」
「新たな自分の可能性に気づいた
そんな気づきが
自分の成長につながるはずだ」
これまで気づけなかった
自分に出会い、新たな人に出会い、
地域の繋がりを創ろう。
まずは一歩踏み出そう。
みなさんのチャレンジを
待っています。

2024年度 高齢者と若い世代との交流による高齢者自立対策実証事業(群馬県委託事業)

sonrisa 認定まごマネージャー®育成プログラム

地域実践プログラム

受講料 無料

エントリー受付中

地域実践プログラムは、地域で新しい取り組みを目指す自治会と協力し、自分の想いや問題意識を言語化しながら、高齢者の笑顔のための新しい企画立案に(まごのような温かさを持って)チャレンジする実践型の地域インターンシッププログラムです。受講生はプログラム期間中に、座学・実務体験・活動計画へのフィードバックを得ながら、多世代に関わる地域づくりを目指します。

こんな方におすすめ

本プログラムで学ぶこと

- 自分を知る** 自分自身の課題や強みや価値観を共有し、社会に対してどのような価値を提供していくかを理解する。
- 地域を知る** 地域課題や制度、地域を取り巻く関係者との対話を通して、地域への理解を深める。
- 現場を知る** 地域の現場で高齢者との関わりを通して、高齢者の気持ちや背景を深み取る。
- 実践する** 自分自身の想いをより多くに仲間と共に計画を立て、実践する。

- 全国の一流講師陣から事例や対話を通して学ぶ
- 想いを持った多様なメンバーと学ぶ
- 地域で実践するための現場経験と知識を学ぶ
- 体系立てた研修プログラムと個別フォローにより、自己理解を深める

課題 地域のつながりの希薄化・高齢化・孤独

実践 地域の抱え手の減少により、課題へ手を付けづら…そこに今回の地域実践プログラムの若者が関わる!

目指すゴール 地域や自治会にとって良い変化を生む推進力となる!!

地域実践プログラム エントリーのご案内

募集期間 2024年6月17日(月)~7月26日(金)

参加の流れ

まずは「地域実践プログラムの説明会」or「個別相談会」に参加をお願いします。
右記QRコードの応募フォームからお申込み下さい。

説明会ではプログラムへの理解を深めます。初めて不安な方や迷っている方も、人生相談の要領でご参加いただけます。分からないことがあればお気軽にネトラシ下部のNPO法人ソリッサ連絡先にお問い合わせください。



募集人数

10名(※応募多数の場合は選考あり)

応募資格

- 群馬県在住の18歳から39歳の方
- 地域づくり・地域福祉に興味・関心を持っている方

実施プログラム

自分のやりたいことと地域の課題を紐づけ、どちらかのプログラムに参加していただき、ソリッサのコーディネーターと共に活動していきます。

- 1.「地域の社会資源を発掘しながら、町ぐるみのマルシェを企画・実行する」 実践先の地域/前橋市大利根町
高い高齢化率や一人暮らし高齢者も多いため、住民同士の支え合いやつながり作りが必要とされている。若者の方で町に根を呼び起こし、地域の方を巻き込みながら多世代交流マルシェを企画し、実行することで地域住民の交流の場づくりを実施する。
- 2.「地域の文化や日常を大切にしながら新規プロジェクトを企画する」 実践先の地域/前橋市総社町新田
地域の担い手が少なく、若者や高齢者が地域活動に関わることが難しいという課題がある。若者が独自の視点をもた地域活動へ参加し、地域の良さと想いを活かしながら、地域の方と協働して課題解決の糸口を見つけ、新たなプロジェクトを構築し実行する。

スケジュール

2024年 7月28日(日)	DAY1	地域実践プログラムキックオフ
8月25日(日)	DAY2	講話&チームミーティング
11月実施予定	DAY3	中間発表
2025年 2月実施予定	DAY4	最終発表会
3月実施予定	DAY5	振り返り&引継ぎ

お問合わせの声

「理想はたくさん、地域の方々が自分一人の活動も、気持ちに任せてほしい。」

「自分がコツコツと地道でやり続けていくことに興味したい思いの横溝を行動したい人達から繋がりを築いていこうと決まっています。」

「先輩さんや先輩の先輩さんから教えてもらったことにチャレンジしてみようと思えました。」

sonrisa

ひとりで抱えずに、優しいつながりが、溢れる社会をつくる

NPO法人ソリッサは「ひとりで抱えずに優しい繋がりが溢れる社会をつくる」をビジョンに掲げて、群馬県で高齢者の孤立・孤独を笑顔に変えるための活動をしています。メンバーは、「まごマネージャー」と呼ばれる、20代から30代の医療福祉や地域福祉に専門的な知見を持つ若者たちで構成されています。私たちは、孤立・孤独状態の高齢者の想いや課題を汲み取り、生きがいや社会とのつながりを作るための伴走型支援事業などを実施しています。



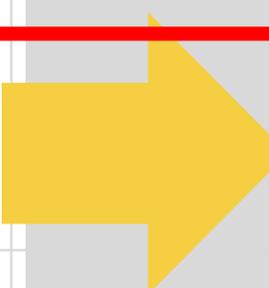
sonrisa

NPO法人ソリッサ 大利根事務所 (大利根町公民館前) 〒371-0825 前橋市大利根町1-30-8 斎藤賃貸住宅 西南2号
営業時間 8時半から17時半(定休日:土日・祝日)
電話 027-226-5013 メール info@sonrisa-npo.com 最新の活動内容を発信中!詳しくはHPをご覧ください



sonrisa-npo.com/

新しい地域自治「地域自治2.0」の要素・移行・状態について

	既存の地域自治1.0	地域自治1.5	地域自治2.0	
圏域	既存の自治会		既存の自治会、もしくは複数自治会の集合圏域	
構成員	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の構成員（自治会の住民）の高齢化により実行機能が不足構成員が多様でないため、意思決定が硬直化する 地域の困っている人を支える担い手がない。 民生委員の欠員、1人で高齢者を多数対応 	 <p>自治会関係者にも「仮：自治会2.0」構想を共有し、協力を得ながら地域実践プログラムを実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 若者や高齢者、NPOなどの多世代が構成員（構成員は自治会外からも参加できる、まごや若者が参加しやすい仕組み） アルバイトでまごマネ大学生が自治組織の運営を担う 	
関係性	縦の関係性が多く、流動性がない。			NPOや若者が触媒となりつつ、高齢者や地域の人々が相互に学び合い助け合うようなフラットな関係性
DX・ITサポート	<ul style="list-style-type: none"> ホームページなし 回覧板と年数会の会報のみ 			<ul style="list-style-type: none"> ホームページ構築（回覧板のDX） 会員向けのオンラインメッセージ機能 センサー導入（孤立死防止）
市民活動・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> 自治会サロン、婦人会・老人会（解散相次ぐ→地域の情報共有ができず地域の希薄化につながる。 		<ul style="list-style-type: none"> 若者のスマホサポート 構成員が企画・運営するサロン・コミュニティ 若者の民生委員サポート制度 高校生や大学生が地域に入り、地域活動に促進する仕組みができる。 	
自治会活動	<p>回覧板や防災の機能の運営が大変</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいことを起こしづらい。 お祭りや敬老会の開催も難航し、お祭り・地域活動の減少により、地域に参加する機会が少ない。 		<ul style="list-style-type: none"> 困りごとを抱えた高齢者へのまごマネの御用聞き訪問 若者がサポートする広報支援 若者や多世代が関わるお祭り運営 	

研修内容紹介 ④実践する「大利根チーム」



ソンリッサはどのように生まれたのか

幼少期～

核家族の家で育つ。
辛いことがあると祖父母の家に自転車で行く。
祖父母との関わりが居場所に、無償の愛を受け取る。

小・中学生～

地域行事への参加、地域の将棋クラブに所属。
地域の人や高齢者と関わり愛情を受け取る。

高校生

祖父を亡くし、一人暮らしになった祖母を訪問する。
やるせなさを感じ、解決したいと決意

22歳

2017年にNPO法人ソンリッサ設立。
**自分が地域や高齢者から受け取ったものを還元したい、
貢献したいという気持ちを持って社会に出る。**



高齢者を取り巻く環境・課題提起

A photograph of an elderly man sitting on a wooden bench in a park. He is wearing a brown hat, a dark jacket over a plaid shirt, and dark pants. He is looking towards a large tree with white blossoms. The background shows a grassy area and other trees. The text is overlaid in the center of the image.

一人暮らし高齢者の方と
最近、お話をされましたか？

【全国】一人暮らし高齢者の会話頻度

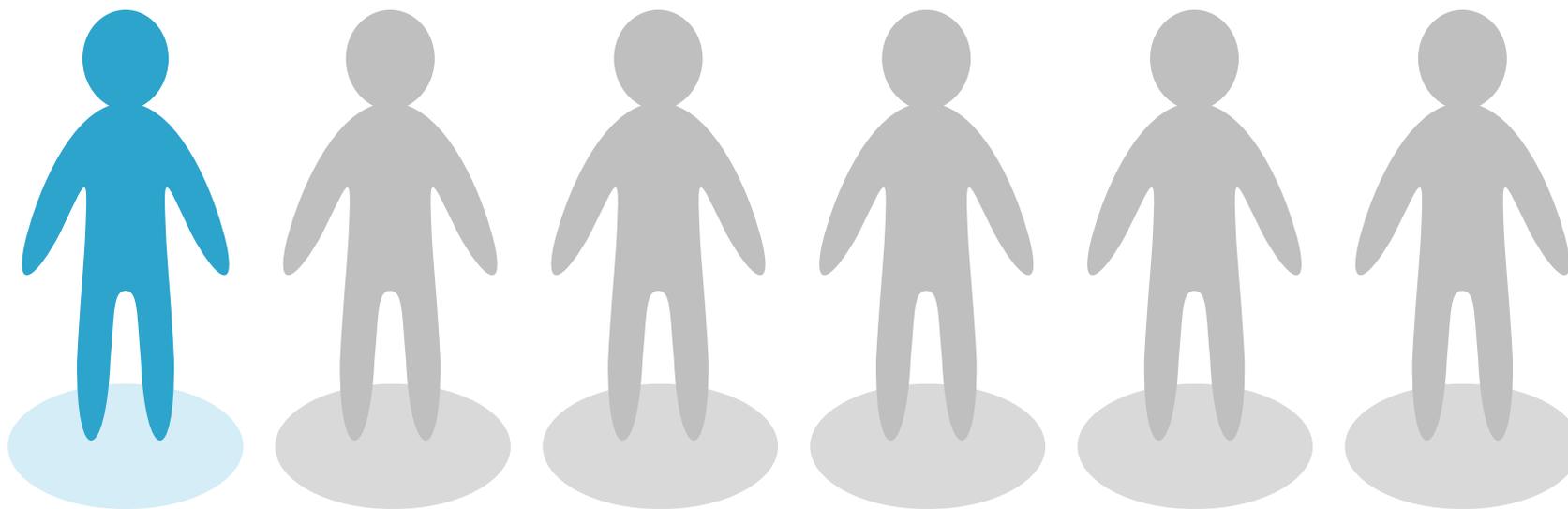
一人暮らし高齢者は全国で約700万人、そのうち40%が他者との会話頻度が低い



出典：内閣府「平成26年度版高齢化社会白書」

【全国】一人暮らし高齢者の会話頻度

男性の6人に1人（35万人）は
月2回以下



出典：内閣府「平成26年度版高齢化社会白書」

【群馬県】 独居高齢者の状況

2021年、群馬県における65歳以上の独居高齢者は約96,000人



約40%の独居高齢者が望まない孤立・孤独状態にある

高齢者の本音

近所づき合いは
ほとんどない

足が不自由で出歩けない

移動手段がない

人と会う機会が減った

繋がりたいけど繋がれない・・・

属するコミュニティがない

何かあったら頼れるのは
近所ではなく遠方の血縁

食事は毎食1人

家と家が離れすぎている

高齢に伴い体力 & 気力が低下し、活動範囲が減少することは、誰にでも起こる自然な変化。

「ここに来れなくなると
家にこもって弱っちゃうんだ」



高齢者が孤立するタイミング

配偶者の死

役割の喪失

体力の衰え

老化による意欲低下

**誰にでも孤立する可能性があり
自己責任ではない・・・**

居場所の閉鎖

コロナウイルスの影響

地域の人間関係の悪化

免許の返納

きっかけはちょっとしたことから

孤立する高齢者の建前と本音

建前

心配しなくて大丈夫。
子供、孫の生活を優先してほしい。

本音

周囲に迷惑をかけたくない。本当は寂しいため、人との交流を求めているも、現状仕方がないと諦める。地域の集まりに興味もない。誰にも求められず、やることがない。

**現状仕方がないと諦めて、我慢して、当たり前になり、孤立していきます・・・
高齢者は声をあげません。**

行政サービスの孤立高齢者への対応

行政での支援も展開されているが、対象範囲は限定的

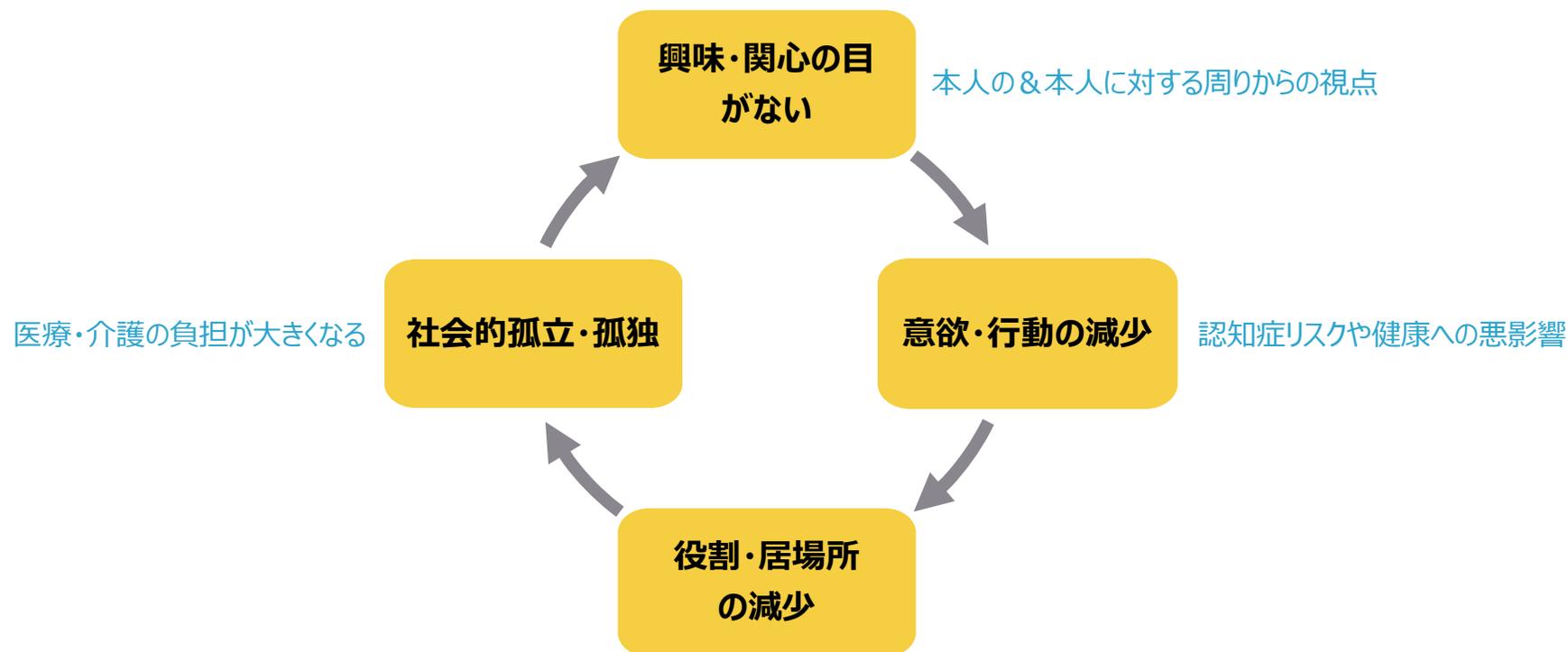
	訪問介護	包括支援センター	民生委員
目的	生活支援	適正な介護保険使用	孤独死の防止
サービス	入浴介助、片付け等	介護保険相談	安否確認
現状	<ul style="list-style-type: none">■ 提供内容が限定的 (入浴・掃除等)	<ul style="list-style-type: none">■ 業務範囲が広く人手不足■ 重大な課題の対応に追われる	<ul style="list-style-type: none">■ トラブル、ゴミ屋敷等を行政に共有■ スキルのばらつきが多い

**関係機関は日々ベストを尽くしているが、
孤立高齢者の孤立に寄り添いづらい現状がある**

孤立する高齢者の一番の課題は何か？

孤立することで生じる一番の課題は「意欲の低下」と「選択肢の減少」

やりがいをもって社会に参加する意欲がだんだんと低下し、日中こもりがちになり、ひとりぼっちで生活していくとさらに意欲が低下する、というスパイラルになります。本人の認知機能はしっかりとしているので、周りの家族などからは大丈夫だと思われることが多く、本人も家族も自覚のないまま孤立状態が長引きます。そのようになると、行動すること自体が減少していき、役割・居場所が減少していき、社会参加の選択肢が急激に減ってしまいます。



レバレッジポイント

【興味・関心の目がない】部分に焦点をあてることをソニリッサは大切にしています。

【レバレッジポイント】

まごマネージャーが高齢者それぞれの想いを大切に、寄り添い、居場所/役割に繋げる

